

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年7月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0770800324		
法人名	社会福祉法人 天心会		
事業所名	グループホーム すこやか		
所在地	〒966-0902 福島県喜多方市松山町村松字北原3656-1 (電話) 0241-24-4870		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年5月31日	評価確定日	平成19年7月23日

【情報提供票より】 (平成19年3月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	13 人	常勤 13人, 非常勤 0人, 常勤換算	11.2人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1～2階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		750 円

### (4) 利用者の概要

利用者人数	16 名	男性 6 名	女性 10 名
要介護1	5 名	要介護2	8 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 67 歳	最高 98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	飯塚病院、飯塚病院附属有隣病院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療と福祉のまちづくりを実現するために取り組んでいる社会福祉法人が設置し運営するグループホームである。利用者が心身ともに安心して、名称のとおり「すこやか」に暮らし続けることを目指している。医療・福祉ゾーンの一角にあり、建物は施設ではあるが、入り口正面には、プランターに季節の花を植えたりして外部の人たちが訪れやすいような環境づくりに配慮し、地域密着型サービスとしてのホームの存在をアピールする努力をしている。特に、利用者手作りの木製の標示板は見事である。利用者はホームを自宅のようにして馴染んでおり、外来者を温かく受け入れる、ゆとりと信頼感が感じられる。管理者はじめ職員も利用者と家族のように一体的に生活し、支援している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 評価の意義を十分理解し職員全員で取り組んでいる。前回の評価で改善の指摘があった環境整備についても、法人本部と協議し改善が図られていた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5) 管理者は、運営推進会議が法的に義務付けされたことを評価し、積極的活用を図るための努力をしている。利用者や家族、地域住民代表者や地域包括支援センターの職員等との意見交換やホーム内の情報提供を行うなどして地域との交流を深め、支援が得られるよう努めている。また、会議での意見をサービスの向上に反映させている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 毎月1回は、利用者の家族に健康状態や暮らしぶり等を利用者の顔写真を添えて便りとして発送している。また、電話等により随時の連絡も行っている。運営推進会議では、家族や利用者が気軽に発言しやすいように特に配慮し、意見や要望等に対する対応も速やかに行っている。金銭管理についても面会時に家族に必ず報告し了承を得ているが、毎月のお便り送付の際に、金銭納付状況を一緒に同封することなども検討してはと思われる。
重点項目③	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目④	町内会には加入しているが、今年度ようやく定期総会に出席したとのことであり、地域の人たちと交流し地域の一員として行事等に参加するまでには至っていない。しかし、運営推進会議等を活用し、地域が行う行事等の情報把握や、ホームから地域に情報を発信するなどして、地域との交流を行うよう努めている。今後は一層住民の一員としての役割を担うよう努められることを期待したい。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念を把握し、その実現に向けて取り組んでいる。しかし、これまでの理念に制度改正後の新たな地域密着型サービスとしての内容変更がなされていないので、地域密着型としての最も必要な地域との関連性を重視した独自の理念を掲げることが望まれる。	○	ホームの運営や利用者に対する支援は充実しているため、運営基準に示されてある基本方針のもとに、地域密着型サービスの役割を反映した、地域の人たちと利用者との共生を基本とした独自の理念を検討することを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の職員間での共有は、毎月1回の勉強会や毎日のカンファレンス、申し送りなどで話し合い、日頃より意識付けを行っており、サービス提供の場においても反映されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設以来7年を経過しているが、町内会の総会に今年度初めて参加したようである。地域の行事等に積極的に参加するまでには至っていないが、運営推進会議等を活用し交流を深めるよう努めている。	○	地域密着型サービスとしてのグループホームの存在が明確化したので、運営推進会議を積極的に活用し、地域の情報やホームの情報を交換しながら地域住民の一員としての役割を担うよう努めてほしい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	地域密着型サービスとしてのグループホームの存在が明確化したので、運営推進会議を積極的に活用し、地域の情報やホームの情報を交換しながら地域住民の一員としての役割を担うよう努めてほしい。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催の運営推進会議記録から、参加者が会を重ねるごとにホームの状況等を理解し積極的に参画していることがうかがわれる。また、指摘された点についての対応もスムーズに行っておりサービス向上に活かしている。		
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回定期的に家族に近況報告を行っている。また、すこやか便りとして、行事に参加した際の写真をプリントし、職員が添え書きをするなど、きめ細かに報告をしている。金銭出納も面会の際に提示し了承を得ているが、今後、定期的にお便りを出す際に一緒に送付することを検討してはと思われる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でも利用者や家族が自由に言えるよう配慮しており、意見や要望がある場合には速やかに対応し、改善するよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動等による職員への対応については、法人全体で取り組んでいる。新人に対するオリエンテーションマニュアルも整備され、プリセプター方式（プリセプト（新人）が疑問点を率直に記載し、そのことに対しプリセプター（3年位の職務経験者で指導する側）が教示する）を採用し、速やかに職場に慣れ、不安なく利用者を支援し、利用者へのダメージを軽減している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体としての年間研修計画により受講している。また、外部研修受講者による職場内研修を積極的に行っており、職員の資質向上の均一化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	喜多方市全体のグループホームで構成する連絡会に参加し、勉強会や意見交換会を行い、サービスの質の向上に努めている。今後も同業者を訪問したりして、ケアに役立つ実践的交流を行うこととしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、利用者から多くのことを学びながら、和やかに共生関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から希望や意向を十分聴取し、ケアに反映させている。利用者一人ひとりとゆっくりと会話しながら、本人の希望を把握し、生活援助計画にもサービス内容を具体的に記載し活かせるよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の意向や状態像を把握した具体的な個別計画になっており、定期的にカンファレンスやアイデアを出し合いながら作成し、毎日の実施記録の内容についても全員が理解している。今後は、家族の意見を一層取り入れ、計画に活かせるよう努めることとしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況や変化に対する計画の見直しを行っており、家族にも説明し確認を得ている。また、モニタリングチャートを使用し、随時、状況変化に対する見直しを行っており、記録状況も整備されている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診支援については、勤務のローテーションを考慮しながら職員で支援を行っている。また、医師からの指示や専門的な質問に対応するなどして医療機関との信頼関係を維持し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化対応や終末期の看取りについて職員全員が把握しており、重度化対応指針、看取りに関する指針も作成している。重度化対応指針には、看護職員の24時間体制が確保されていることを明記し利用者等の確認を得ている。今後は医療連携加算体制が整備されていることから、入居の際に利用者や家族に説明し、同意を得ることが望ましい。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として利用者に接し、尊厳を基本にした言動に心がけている。個人情報保護の徹底についても職員が理解し秘密保持に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ自由にその人らしいペースで暮せるよう利用者を見守り、その人の状態に合わせて、柔軟に対応しながら支援することに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が植えたホームの畑の野菜等を食材に取り入れ、調理の準備や後片付けなど職員と一緒にいき食事を一日の大切な活動として取り入れている。職員も利用者とは話をしながら一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の勤務ローテーションを工夫しながら、利用者の意向に沿った入浴支援に努めている。また、利用者の羞恥心や抵抗感にも配慮しながら支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	畑での農作業、調理、縫い物、大工仕事等利用者の生活歴や「昔とった杵柄」を把握し、役割や楽しみ場を設定し、活かすような取り組みに配慮している。市の作品展で老人クラブ賞を受賞された利用者の衝立が事務所に飾ってあり目を引いた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	日常的な外出は積極的に行っている。「ふる里」訪問と称して、希望により利用者の自宅を訪問し親族と語り合うなどの試みを取り入れている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットとも鍵はかけていない。1階は玄関にセンサーがあり、2階は鈴があるが、音が静かで出入りが分からないくらいである。職員はセンサー等に頼らず、見守りながら一緒についていくなど利用者の自由な行動を尊重しながら、安全面での配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震、火災等に対する避難訓練は毎月1回定期的に実施している。法人内の協力体制も整っているが、日頃から地域住民や警察署、消防署との連携は図られていない。また、ホーム独自で災害用備蓄等の準備が必要である。	○	災害等に対しては、法人内の協力はもとより、地域の協力を得るため、運営推進会議等を活用し理解を得て、体制を整備するとともに、日頃から警察署、消防署の協力が得られるよう理解を求め、協力体制を整備することが望ましい。また、災害時に備え非常食や暖房用の物品等の準備が必要である。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養指導を参考にし、利用者各自の栄養バランスをみながら支援している。また、チェック表に水分や食事量を記録し把握している。年1回定期的に栄養状態を検査してもらっているが、利用者全員、問題点の指摘はなかった。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間など快適な空間と家庭的な雰囲気を感じられる。静かな音楽を流したりして落ち着いた雰囲気作りにも配慮しており、利用者の表情も穏やかである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や思い出の物品等が配置されており清潔で居心地良く過ごせる居室となっている。		

※  は、重点項目。



### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームすこやか

記入担当者名 遠藤 厚子

#### 評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。